

# ピンクリボンNEWS

2025年度  
夏号  
Vol.14 No.2

発行人 認定NPO法人 J.POSH

編集 ピンクリボンNEWS 編集委員会

発行所 J.POSH事務局〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号 TEL.06-6962-5071

**J.POSH**  
日本乳がんピンクリボン運動®

## TOPICS

### がんと向き合う 親子とともに Hope Treeの 願いと支援の輪



NPO法人 Hope Tree  
代表理事

大沢 かおり

このたびは、貴重な紙面をお借りして、私たちNPO法人Hope Tree(<https://hope-tree.jp>)の活動をご紹介させていただく機会をいただき、心より御礼申し上げます。

はじめに簡単に自己紹介させていただきます。私は1991年より東京都目黒区の東京共済病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務し、2003年には自らが乳がんの治療を経験しました。2007年からは乳がん相談支援センター専任となり、これまで多くの乳がん患者さんの相談に対応してまいりました。そして2008年、親ががんになった子どもたちとその家族を支えるために、NPO法人Hope Treeを設立し、代表理事を務めています。

乳がんは、子育て期の女性にとって身近ながんの一つです。診断や治療に伴う変化

は、患者さんご本人だけでなく、ご家族の生活にも大きな影響を与えます。患者さんに関わる中で、親の病気を経験する子どもたちの心にも、不安や戸惑い、言葉にしづらい感情があることに気づかされてきました。治療によって家庭のリズムが変わったり、理由を知らされないままお母さんの体調不良を目の当たりにすることで、子どもたちにさまざまな影響が生じることがあります。

Hope Treeは、そうした子どもとその家族を支えるために設立されました。医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、チャイルドライフスペシャリスト、医師、看護師など、多職種の専門職が集まり、「親が病気になっても、子どものたくましい力を育みたい」という思いのもと活動しています。

当時の日本では、「親ががんになった子ども」への支援は前例がほとんどなく、家族支援においても子どもの視点は見落とされがちでした。そこで私たちは、海外の専門家を招いての講演会やワークショップを開催し、2010年からは国内初となる子ども支援プログラムCLIMB®(Children's Lives Include Moments of Bravery)を開始しました。(次ページへつづく)



CLIMB®(クライム)は、親ががんと診断された家庭で育つ6歳から12歳の子どもたちを対象としたグループプログラムです。親ががんになるといろいろな気持ちになりますが、「どんな気持ちになっても大丈夫」というメッセージを伝え、工作などを通して自分の気持ちを表現したり、周囲に伝える方法を学び、「対処する力」を育んでいきます。親のがんを正しく理解し、自分なりに受けとめていけるよう、専門職がやさしくサポートしています。

また、同じような経験をした仲間と出会い、共に過ごす時間そのものが、子どもたちにとって大きな支えになります。「自分だけじゃなかった」と感じられることが、安心感や自己肯定感、そして親のがんと向き合う力へとつながっていきます。

これまでの参加者からは、「ママが病気で聞いてすごく怖かった。でも、同じ気持ちの子がいてホッとした」「本当のことを話せたのがうれしかった」「1回目に行ってたのしくて、つぎがたのしみになって、とてもうれしくなりました。さいごのひはかなしかったです。またあいたいな、とおもっています」「工作が楽しかったです」などの声



CLIMBプログラムの活動風景①

### 「がんの治療を学ぶ時間」

キワニスクールに顔や洋服を描いた後、お人形に点滴をして点滴の仕組みを学びます。親が受けている治療を知ることで、怖さが和らぎます。



CLIMBプログラムの活動風景②

### 「仲間との交流のひとつコマ」

自由時間に女の子がホワイトボードに仲間の似顔絵を描き、名前を書いていた。同じような経験をしている仲間の絆が生まれて、それが子どもたちのこれからの力にもなっていきます。

が寄せられています。

CLIMB開催中、親(患者さんと配偶者)は別室で「CLIMB親プログラム」に参加します。親グループの目標は、親ががんであることに関連する悩みに子どもが向き合うのを親が手助けできるようにすることです。セッションでは、親のがんと子どもの発達に関する情報、親自身のストレス管理、親子のコミュニケーション、回復力を家族で高める方法などを学びます。

参加したがん治療中のお母様方からは、「同じ境遇の子どもたちと、サポートしてくださるスタッフの方々との関わりを通して、家庭だけでは足りない部分に寄り添っていただき、娘自身が心を解放できたと感じています」「がんの話は“暗いもの”という認識だったので、できれば話したくないものという暗黙の了解みたいなものがありました。が、一緒に楽しく課題をこなしていくうちにただ現実起きたひとつの出来事として向き合うものへと変化しました。」

「子どもには安心感を、親は新しい視点を授けてくれたと思います」「がんや治療によってできた距離が縮まったように思います。気分的に楽になりました。」「“不安”“悲しい”と言葉に表したり、甘える事ができるように



なりました」「毎週すごく楽しみにしていました。私以外のがんのお母さんに会ったことやそのお友達に出会えたことが嬉しく、安心したようです。もっと話したいといっていました」といったお声をいただいています。

Hope Treeでは情報提供にも力を入れており、「子どもとがんについて話してみませんか」など4種類の冊子を制作し、無料でお届けしています。ご本人からのお申込みはもちろん、医療機関からのご依頼も多く、幅広くご活用いただいています。

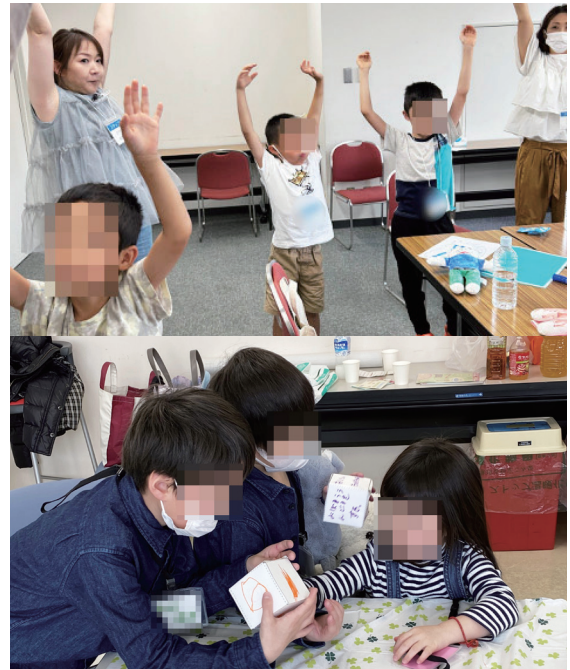
私たちがCLIMB®のような直接支援と並行して医療者向けの教育にも取り組んでいるのは、私たちが東京で活動しているだけでは、全国の子どもたちに支援を届けきれないからです。地域の医療者が、子どもをもつ患者さんにどう関わればよいかを学ぶことで、より多くの子どもたちに支援が届くようになります。実際、こうした医療者の働きかけにより、支援の輪が全国に広がってきています。



CLIMBプログラムの活動風景③

#### 「沖縄の乳腺クリニックでの開催」

マンモグラフィ機器や点滴のしくみの説明を、子どもたちが真剣な表情で聞いていました。



CLIMBプログラムの活動風景④

北海道CLIMB… 気持ちを落ち着かせる方法として深呼吸に取り組んでいるところ。(写真上)

秋田CLIMB… 兄弟で参加。(写真下)

さらに、必要な支援に出会えない方にもヒント届けたいと考え、『がんになった親が子どもにしてあげられること』（ポプラ社）という本も執筆しました。子どもへの伝え方や接し方、家庭でできる工夫などをわかりやすく紹介しています。「どうしたらいいか、自分で考えるきっかけになった」という声もいただいています。ぜひ多くの方に手に取っていただけたら嬉しく思います。

2022年には、こうした取り組みが評価され、公益財団法人 日本対がん協会より「日本対がん協会賞(団体の部)」を受賞しました。これからも、がんとともに生きる親子の力になれるよう、活動を続けてまいります。

現在、東京・北海道・秋田・福井で'25年夏休みCLIMBの参加者を募集中です。詳細はHope Treeのホームページ「お知らせ」に掲載していますので、ぜひお気軽にお問い合わせください。お子さんにとって、きっと楽しく安心できる時間になると思います。